

令和7年度 赤穂市学校評価報告書

学校園名 赤穂市立尾崎小学校

1 本年度の学校経営方針

学校教育目標：自ら学び、夢を追い続ける児童の育成
～なりたい自分を見つけ、努力し続ける児童の育成～

「なりたいと願う自分になることが出来る学校」学校は夢がかなう場所

I チーム尾崎小としての学校運営（協働する喜びにあふれた職員集団）

「よいものを光らせる」「よいものを認め、広める」

- 1 主体的に学び合う授業を創造する。2 すべての子供が安心して学べる安全な環境をつくる。
- 3 教育の専門家として常に学び続ける。4 気づいたことは声に出して、共有していく。
- 5 チームの一員としての誇りと自覚を持って職務を遂行する。6 効率的で活気あふれる学校運営を行う。
- 7 いじめを防止し、早期発見・早期解決に全力で取り組む。

II 確かな学力の定着と向上（授業の改善と充実）

- 1 学びの基礎基本を徹底する。2 子供が主体的に学ぶ授業への改善 3 学習習慣を確立する。4 体力の向上を図る。
- 5 情報教育を推進する。6 国際理解教育を推進する。7 伝統と文化に関する教育「尾崎学」の充実を図る。
- 8 キャリア教育を推進する。9 環境教育を推進する。10 防災教育・安全教育の充実を図る。

III 自尊感情を育み、望ましい人間関係を築く。（人権教育の充実）

- 1 豊かな心を育む。2 道徳的資質を醸成し、実践力を育む。3 人権教育・多文化共生社会の実現をめざす教育を推進する。
- 4 支持的風土を醸成する。5 特別支援教育を充実する。

IV 教育専門職としての資質を高める。（研究・研修の充実）

- 1) チーム尾崎小として学校経営参画の意識をもち、小さなイノベーション（学校を変革する気付き）の継続を図る。
- 2) 自分の得意分野の授業研究を行い、授業力（指導力・評価力・授業改善力）を高める。
- 3) 総合的な人間力を育む。
- 4) 日常のOJTで知識や指導技術の伝承を図り、若手教職員を育成する。
- 5) 教職生活全体を通して学び続け、一人一人が自分の得意分野を伸ばし、専門性を高め、社会の変化に対応できる知識と技能を身に付ける。

V たくましい地域人を醸成する。（家庭・地域との連携）

- 1 コミュニティ・スクールとして地域とともにある学校の構築を推進する。
- 2 社会に開かれた教育課程を創造する。
- 3 学校ホームページや学校だよりにより、地域の人たちの学校への理解を深める。
- 4 地域との交流を深め、尾崎の町に愛着と誇りを持つ子供を育てる。
- 5 赤穂東中学校区7校園所・専門機関との連携を強化する。

2 本年度の学校（園）重点目標

- 1 個別指導の充実を図る。
- 2 ICT（タブレット）を活用した学習を推進する。
- 3 体力の向上を図る。
- 4 伝統と文化に関する教育「尾崎学」の充実を図る。

3 自己評価結果（A～D） A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

観点 (重点目標)	評価項目 (学校園・教師の取組)	評価資料	達成状況	改善の方策
授業の 改善と 充実	項目 指標 基礎基本を明確にして授業を進めている。 授業はわかりやすく、楽しい。	自己評価 保護者・児童アンケート	A	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、学習タイムの時間を有効に活用し、基礎基本の定着及びICT機器の活用能力向上を図る。 校内研修を積み重ね、分かる授業が展開できるよう、発問や指導方法の実践に取り組む。 つまづきやすい学習内容の分析をし、その対策を検討して手立てを行う。 インターネットリレラシーを含め、児童と保護者にもインターネットとの正しい付き合い方について年間を通して指導、啓発
	項目 指標 分かる授業を目指して指導方法の工夫改善に努めている。	自己評価 保護者・児童アンケート		
	項目 指標 授業がよくわかる。	自己評価		
	項目 指標 個に応じた指導を意識し、推進している。	自己評価		
	項目 指標 一人一人に合った指導をしているか。	自己評価		
	項目 指標 指導と評価の一体化に努めている。	自己評価		
	項目 指標 明確な目標、多様な評価を行う。	自己評価		
項目 指標 授業時数の確保に努めている。	自己評価			
項目 指標 カリキュラムに準拠して指導する。	自己評価			
項目 指標 実態に応じて工夫し、特色ある教育活動に努めている。	自己評価			
項目 指標 尾崎ならではの教育活動の展開。	自己評価			

総合的な学校園関係者評価

- ・「ふるさと愛がもてる子」を一人でも多く育てるよう地域の方やPTA役員さん達との交流を密にし頑張ってもらいたい。
- ・小学生の挨拶がとても良くなっている。
- ・「学校は楽しい」「学力が身に付いてきた」の結果が高い値を維持していることが素晴らしい。
- ・「自分や相手を大切にする」の値が高井のは学校教育の要である。
- ・通学している児童は楽しそうに学校へ向かっているように感じる。
- ・運動や生活習慣の部分においても良い方向にあるのでは。
- ・子ども達の生活習慣は親のしつけである。
- ・学校でもICT化が進み、連絡帳がなくなっている。
- ・体力テストの項目もずいぶんと変わってきている。

学校園関係者評価

◎：適切である ○：ほぼ適切である △：あまり適切でない ×：適切でない

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度具体的改善方法
◎	○	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットで学習できる環境は整っている。活用法を工夫する必要があるのでは。保護者がタブレット学習についてどこまで理解しているかも課題なのではないか。 ・情報リテラシー教育の徹底を図っていただきたい。 ・タブレット学習のみならず、書く学習を充実していくような工夫が必要である。

項目 指標	体験的、問題解決的な学習に取り組んでいる。----- 目的を明確にして効果的な活動を仕組む。	自己評価		していく。			
項目 指標	課題教育の推進に努めている。----- 国際理解・環境・福祉・情報・健康教育	自己評価 児童アンケート					

観 点	評 価 項 目 (学校園・教師の取組) 評 価 指 標 (児童・生徒・園児の状態・行動)	評価資料	達成状況	改善の方策	自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度具体的改善方法	
人権教育 の充実	項目 指標	全領域の中で推進している。----- 計画的に実施する。	自己評価 児童アンケート	A	<ul style="list-style-type: none"> 尾崎小独自の「まなびあいことば」を活用し、授業においても人権感覚の醸成を図る。 いじめアンケートを定期的の実施し、いじめや不登校の未然防止や早期発見に努めるとともに、アンケート結果の活用方法やいじめ防止の取組等を検討していく。 週に一度は児童の情報を必ず全職員で共有し、課題についてはチームで対応する。 	◎	○	<ul style="list-style-type: none"> いじめの早期発見については、昨年度より10%高くなっている。保護者から見れば早期発見に努めているように見えないようである。 いじめ対応については、保護者側から「分からない」という意見が多い。何らかの方法で状況を周知していく必要がある。
	項目 指標	生きる力を育むよう積極的に取り組んでいる。----- 常に目をかけ、声をかける。	自己評価 児童アンケート					
	項目 指標	いじめや不登校問題を解決しようと努めている。----- 日常の観察、研修の充実、感性を磨く。	自己評価 保護者・児童アンケート					
	項目 指標	児童に寄り添う指導に努めている。----- 特別な支援を要する児童に適切に関わる。	自己評価 保護者・児童アンケート					
	項目 指標	特別支援教育の啓発に努めている。----- 保護者や地域住民に理解を促す。	自己評価 保護者アンケート					
研究・ 研修の 充実	項目 指標	自分で課題意識を持って研修に取り組んでいる。----- 課題を明確にして、研究している。	自己評価	A	<ul style="list-style-type: none"> 教員一人一人の得意分野の研究を進め、校内研修でその研究を広め、授業力の向上に努めていく。 学年を越えた研究グループを組織し、研究授業等を実施していく。 朝体育を継続して、さらに発展させ子ども達の体力向上に向けて取り組んでいく。外遊びを奨励し心と体の調和的発達に取り組む。 赤穂義士や郷土学習については、職員研修などにも取り入れ、学校全体として研修を進めていく。 	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 「赤穂義士」「尾崎の郷土学習」の評価が低い。研修を進めてほしい。 赤穂や尾崎に関する地域学習には地元の住民を活用してはどうか。
	項目 指標	自己研鑽をし豊かな人間性の形成に努めている。----- 自己研鑽のための様々な活動に参加している。	自己評価					
	項目 指標	健康づくりに配慮し日常的に体力向上に努める。----- 健康づくりに配慮している。	自己評価					
	項目 指標	赤穂義士について適切に指導できるよう研修している。----- 赤穂義士について適切に指導できる。	自己評価					
	項目 指標	教育公務員としての自覚を持って生活している。----- 教育について、常に興味関心を持っている。	自己評価					
	項目 指標	ノー残業デー、ノー会議デーの実施に努めている。----- 毎週木曜日は早く帰る。	自己評価					
勤務時間 の適正化	項目 指標	時間を意識し効率的に仕事を進めている。----- 時間を意識した仕事をする。	自己評価	A	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議をペーパーレス化し、業務の削減と時間短縮を目指す。 定時は16時30分という意識のもと、引き続き定時退勤日を設定し、全職員の意識統一のもとノー残業デー、ノー会議デーの完全実施に努める。 会議や行事等の運営について見直し、精選を進めて業務の効率化を図るとともに、その日の行う業務を決める等の工夫により、子どもと関わる時間の確保に努める。 スクールサポートスタッフを活用し、授業づくりや児童に係わる業務に当たる時間の確保に努める。 	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> ノー残業デイがなくても定時退勤はできているのでしょうか。 教職員が仕事を持ち帰らないような工夫をお願いしたい。 教職員も家族を大切にしてほしい。参観日や行事などに参加ができているのでしょうか。
	項目 指標	子どもと向き合う時間の確保に努めている。----- 子どもとともに過ごす時間が多。	自己評価 児童アンケート					
	項目 指標	校務のデータの共有化を図っている。----- 学校のデータとして一元管理する。	自己評価					
	項目 指標	同僚と協働し、明るい職場環境づくりに努めている。----- 自分を表現する。互いに笑顔で働く。	自己評価					
	項目 指標	学校便り等で学校での様子を伝えるよう努め、相互理解を図っている。----- 家庭への連絡を正確に適切にする。定期的に発行する。保護者の願いを知る。	自己評価 保護者アンケート					
	項目 指標	尾崎が大好きになるよう、郷土の学習を仕組んでいる。----- 授業の中に郷土の学習を仕組む。	自己評価 保護者アンケート					
家庭・ 地域と の連携	項目 指標	電話、来訪者に丁寧な接遇をしている。----- 明るく、さわやかな接遇をする。	自己評価	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりを地域の方々に回覧し、またホームページの充実を図るなど学校の取組について情報を発信していく。 来年度も引き続き、地域と共に尾崎を学ぶデーを開催し、地域学習を推進していく。 総合的な学習の時間にも地域からゲストティーチャーを積極的に招き、教員、児童共に地域についての学びを深めていく。 	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> 「基本的な生活習慣」とは何をさすのかを明確にしてアンケートを実施するのはどうか。 基本的な生活習慣が身に付いていない児童が10%程度いることは多い。 約束やルールを守る態度が身に付いていない児童が10%以上いることの改善は必要である。 学校からの情報発信の仕方を考える必要がある。 早寝早起き朝ごはんは家庭との連携を密に進めることが大切である。
	項目 指標	保護者と連携し相互理解のもと指導に努めている。----- 地域行事に積極的に参加する。	自己評価					
	項目 指標	保護者と連携し相互理解のもと指導に努めている。----- 地域行事に積極的に参加する。	自己評価					
	項目 指標	保護者と連携し相互理解のもと指導に努めている。----- 地域行事に積極的に参加する。	自己評価					

